

# 海外育種事情調査 (ソロモン諸島国コロバンガラ島)

## 1. はじめに

前回、太平洋共同体 (SPC) との共同研究の一環として、SPC 加盟国であるソロモン諸島国 (以下、「ソロモン」という。) のガダルカナル島において育種事情を調査し、本誌 30 巻で報告しました。今回は、2019 年 11 月に同国コロバンガラ島の造林や林木育種に関する事情調査を行いましたので、概要を紹介させていただきます。

## 2. コロバンガラ島の人工林

コロバンガラ島は、ソロモン西部州にある直径約 15km の円形の火山島で、全域に熱帯雨林が広がっています。同島では、過去に天然林施業が盛んでしたが、現在は、ソロモンと台湾企業の合弁会社である Kolombangara Forest Products Limited (KFPL) 社が、島の総面積の 75% の土地を政府から借用して植林と木材生産を行っています。用材生産林の主要な植林樹種は、ユーカリ、アカシア、マホガニーやチークであり、他にはテリハボク属やカンラン属等の郷土樹種が植栽されています。日本のテリハボクと同属の *Calophyllum kajewskii* は、主幹が極めて通直であり、材質に優れるためソロモンでは有用林木となっています。同島の人工造林地の総面積は 14,400ha であり、ソロモン政府所管の森林事務所が島北部のポイテテに置かれています。



ソロモン森林研究省ポイテテ事務所

## 3. 造林樹種の育苗

ポイテテにある KFPL 社の苗畑では、ユーカリ実生苗の大規模生産を行っていました。その他に同社は、アカシアさし木苗、チークスタンプ苗 (根・主幹を切り詰めた苗)、ナンヨウギリやターミナリアの実生苗を生産していました。すべての苗木生産に、小型のプラスチック製コンテナを使用しているということです。



KFPL社が育苗に使用しているコンテナ

## 4. 育種事業

ソロモンでは、メリナ、チーク、ユーカリ、マホガニー、セドロ及びターミナリアを対象として、1988 年に政府主導の公式な林木育種事業がスタートしました。その後、オーストラリアの支援による SPRIG プロジェクトにより、同国の林木育種事業は加速しました。ソロモン森林研究省は、チーク、ユーカリ及びマホガニーの育種に力を入れ、これまでに、チークのクローン採種園や、チーク、ユーカリ、マホガニーの後代検定林を設定しました。現在は、KFPL 社が事業を維持しており、上記の主要樹種については、優良系統の選抜や増殖に向けたバイオリソースが保存されていますが、資金不足から育種プログラムは必ずしも順調に進捗していないようです。

(海外協力部 海外協力課 楠城 時彦)